

授業 科目	保健医療論	担当 教員	外部講師 近藤 泰三*	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：現代医療の全体像を描き、保健・医療実践の課題を学ぶ。</p> <p>目標：1) 保健・医療の対象である人の生命・健康・病みについて理解する。</p> <p>2) 生活と保健・医療の関係を理解する。</p> <p>3) 先端医療技術を学ぶと共に、倫理的問題を理解する。</p> <p>4) 医療の現場における患者の権利と医療者の責務について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	医療と看護の原点	命と健康			講義	近藤	
2	私達の生活と医療 1	病気や怪我をしたら			講義		
3	私達の生活と医療 2	病気や怪我をしたら			講義		
4	技術社会の高度化 1	先端医療の問題点			講義		
5	技術社会の高度化 2	現代医療の落とし穴・倫理上のジレンマ			講義		
6	成熟する社会と 人々の意識改革	インフォームドコンセントと医療開示			講義		
7	生命倫理	エイズ・安楽死			講義		
8	まとめ				講義		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（1） 総合医療論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	地域保健活動論	担当 教員	外部講師 植松 勝子 *	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：個人や家族、特定集団より構成される地域全体を視野におき、各々のセルフケア能力の向上、家族・地域の力量を高めるコミュニティケアの実際を知る。</p> <p>目標：1) 地域に存在する健康問題への支援方法を学ぶ。</p> <p>2) 対象集団や関係機関の人々と連携し協働し、健康問題を解決するケアやサービスを知る。</p> <p>3) 地域に存在する社会資源の活用と新たな社会資源開発を知る。</p> <p>4) 地域で生活する人々が自分の生活と健康の関係を認識し、主体的に取り組みができるよう支援できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	地域看護とは 地域看護の理念	地域看護の理念・公衆衛生の理念		講義	植松		
2	地域看護活動の歴史	日本における地域看護の歴史		講義			
3	地域看護の対象	対象としての個人・家族・グループ・組織・地域		講義			
4	地域看護の場	行政機関・職種・学校・医療機関・社会福祉施設・国際		講義			
5	社会環境の変化と健康問題	社会情勢の変化		講義			
6	地域看護活動の展開	健康と生活・理論および展開方法 地域看護活動の方法		講義			
7	活動の計画・実践・評価 地域看護管理	地域看護活動の展開における地域診断 地域看護活動に関する法令		講義			
8	試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	心 理 学	担当 教員	外部講師 熊谷 みどり *	単位数	1	時期	1年次 6月～
				時間数	30		
<p>目的：人間の「こころ」を理解することによって、よい人間関係や援助関係をつくるための基礎的知識を習得する。</p> <p>目標：1) 一般的な人間の行動メカニズム、心の動き、欲求について学び、心理学のキーワードを理解する。 2) 心理学の基礎を理解し、科学的（論理的）にこころの理解や援助について考えることができるようになる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	心理学とは	心理学の概要		講義	熊谷		
2	感覚・知覚	感覚・知覚の諸現象		講義			
3	記憶	記憶のしくみとモデル		講義			
4	学習 1	古典条件付け、オペラント条件付け		講義			
5	学習 2	社会的学習		講義			
6	情動	感情と情緒、死の受容過程で起きる感情		講義			
7	動機	動機の分類、欲求段階説、コンフリクトと自我防衛規制		講義			
8	性格	性格とその理解、類型論と特性論		講義			
9	知能	知能の定義、知能検査（ビネー式とウェクスラー式）		講義			
10	発達 1	エリクソンの発達段階説とハヴィガーストの発達課題		講義			
11	発達 2	ピアジェの思考発達段階説とレビンソンの発達論		講義			
12	臨床 1	心理アセスメント		講義			
13	臨床 2	様々な心理療法 1		講義			
14	臨床 3	様々な心理療法 2		講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：看護学生のための心理学 医学書院 看護のための人間発達学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	病理学 I	担当 教員	外部講師	単位数	1	時期	1 年次 5 月～
			渡邊 和子* 市川 元司* 杉山 燈人*	時間数	30		
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	病理学総論 1	病理学とは 細胞 循環障害		講義	渡邊		
2	病理学総論 2	炎症 感染 代謝障害		講義			
3	病理学総論 3	老化と死 先天異常		講義			
4	病理学総論 4	腫瘍 心臓・血管・血液の疾患		講義			
5	病理学総論 5	呼吸器・消化器の疾患		講義			
6	病理学総論 6	内分泌・生殖器系・乳腺の疾患		講義			
7	病理学総論 7	脳・神経の疾患 耳鼻科・皮膚科の疾患		講義			
8	呼吸器内科疾患 1	呼吸器の構造と機能 症状とその病態生理 1		講義	市川		
9	呼吸器内科疾患 2	症状とその病態生理 2		講義			
10	呼吸器内科疾患 3	検査・治療・処置		講義			
11	呼吸器内科疾患 4	呼吸器感染症 1 COVID-19		講義			
12	呼吸器内科疾患 5	呼吸器感染症 2 気管支喘息 肺結核		講義			
13	呼吸器内科疾患 6	慢性閉塞性肺疾患 肺高血圧 肺塞栓症		講義			
14	呼吸器内科疾患 7	肺腫瘍 気胸		講義			
15	呼吸器外科疾患	肺の外科		講義	杉山		
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～7 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進(1)病理学 医学書院 回数8～14 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 回数15 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	病理学Ⅱ	担当 教員	外部講師		単位数	1	時期	1年次 7月～
			日比野 剛*	八神 啓*				
				高津 哲郎*	時間数	30		
目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1	循環器の疾患 1	循環器の構造と機能 症状とその病態生理			講義	日比野		
2	循環器の疾患 2	虚血性心疾患			講義			
3	循環器の疾患 3	心不全			講義			
4	循環器の疾患 4	弁膜症、心筋症、心筋炎、先天性心疾患			講義			
5	循環器の疾患 5	不整脈			講義			
6	循環器の疾患 6	大動脈疾患、静脈疾患			講義			
7	心臓血管外科 1	虚血性心疾患 動脈閉塞及び血流障害			講義	八神		
8	心臓血管外科 2	心臓弁膜症			講義			
9	心臓血管外科 3	動脈瘤 静脈の血流障害			講義			
10	運動器の疾患 1	運動器の構造と機能			講義	高津		
11	運動器の疾患 2	症状とその病態生理			講義			
12	運動器の疾患 3	検査・治療・処置			講義			
13	運動器の疾患 4	骨折 脱臼 骨粗鬆症			講義			
14	運動器の疾患 5	腫瘍 変形性関節症			講義			
15	運動器の疾患 6	脊椎疾患 骨・関節の炎症性疾患			講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)						
参考文献と資料		テキスト： 回数1～6 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(3) 循環器 医学書院 回数7～9 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 回数10～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(10) 運動器 医学書院						
事前準備や受講要件等								

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	病理学Ⅲ	担当 教員	外部講師	単位数	1	時期	1年次 9月～
			奥村 文浩* 梶川 真樹* 大野 元嗣* 林 祥太郎* 光本 一樹*	時間数	30		
<p>目的：疾病の病因・病変の特徴および系統別疾患の病態・治療・検査について学ぶ。</p> <p>目標：1) 疾病の分類と成り立ちが理解できる。</p> <p>2) 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。</p> <p>3) 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	消化器内科疾患 1	消化器の構造と機能		講義	奥村		
2	消化器内科疾患 2	消化器症状の病態生理 検査・治療		講義			
3	消化器内科疾患 3	食道疾患 胃・十二指腸疾患		講義			
4	消化器内科疾患 4	大腸の疾患		講義			
5	消化器内科疾患 5	肝臓・胆のう・膵臓の疾患		講義			
6	消化器外科疾患 1	食道の外科		講義	梶川		
7	消化器外科疾患 2	胃・十二指腸の外科		講義			
8	消化器外科疾患 3	腸の外科		講義			
9	消化器外科疾患 4	肝臓・胆のう・膵臓の外科		講義			
10	乳腺・頸部外科疾患 1	甲状腺外科		講義	大野		
11	乳腺・頸部外科疾患 2	乳腺外科		講義			
12	女性生殖器疾患 1	女性生殖器の構造と機能 子宮の疾患		講義	林		
13	女性生殖器疾患 2	卵管・卵巣の疾患 月経異常・更年期障害		講義			
14	内分泌疾患 1	内分泌疾患 糖尿病 1		講義	光本		
15	内分泌疾患 2	糖尿病 2		講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト 回数1～5 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院 回数6～11 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 回数12～13 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院 回数14～15 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	微生物学	担当 教員	外部講師 末松 寛之*	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		
目的：微生物学の体系的な基礎知識を学び、人体に及ぼす影響および対応できる基礎的能力を養う。 目標：1) 微生物学の特徴を理解する。 2) 感染症について学び、その予防対策を理解する。 3) 免疫の種類と疾患について理解する。							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	ヒトと感染症	感染症とは、治療、検査・診断のあゆみ		講義	末松		
2	感染・感染症の機構	感染症の成立と経過、感染症の種類		講義			
3	感染・感染症の種類	感染源と感染経路、感染因子、感染症の種類		講義			
4	免疫と生体防御機構	免疫とその種類、細胞性・液性免疫、抗原抗体反応		講義			
5	免疫と生体防御機構	移植・輸血と免疫、免疫異常		講義			
6	感染症の予防と感染制御対策・技術	滅菌と消毒、予防接種		講義			
7	感染症の予防と感染制御対策・技術	院内感染予防対策 法律による感染症対策		講義			
8	細菌感染症 1	細菌の形態・構造と分類 細菌感染症の治療と予防		講義			
9	細菌感染症 2	主な病原細菌と疾患		講義			
10	細菌感染症 3	主な病原細菌と疾患		講義			
11	細菌感染症 4	主な病原細菌と疾患		講義			
12	ウイルス感染症 1	ウイルスの病原性、検査・診断		講義			
13	ウイルス感染症 2	主な病原ウイルスと疾患		講義			
14	ウイルス感染症 3	主な病原ウイルスと疾患 主な病原真菌と疾患、原虫、衛生動物		講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験、授業の出席状況、態度を総合的に評価					
参考文献と資料		テキスト：わかる！身につく！病原体・感染・免疫 南山堂					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	薬理学	担当 教員	外部講師 宮部 芳之 *	単位数	1	時期	1年次 9月～
				時間数	30		
目的：薬の作用を理解し、人に及ぼす影響を学び、臨床に役立てる。 目標：1) 薬理学とは何か理解する。 2) 薬の特徴と作用から生体への反応を理解する。 3) 薬の管理について学ぶ。 4) 薬物療法における看護師の役割を学ぶ。							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	薬理学概要	薬による病気の治療のメカニズム		講義	宮部		
2	薬の作用機序 1	薬の作用機序、薬物療法時の看護師の役割 薬の作用と投与経路		講義			
3	薬の作用機序 2	薬の体内動態、小児・高齢者への影響 薬効に影響する因子、薬の相互作用		講義			
4	薬の作用機序 3	薬物中毒のしくみ、医薬品の法的規制		講義			
5	薬の作用機序 4	新薬の開発、感染症と抗菌剤のしくみ		講義			
6	抗生物質・感染対策	抗生物質の使い方と有害作用 特殊な感染症とその対応、院内感染対策		講義			
7	治療に関する薬物 1	がん治療薬 化学療法、副作用対策 免疫抑制剤、増強剤とその適応		講義			
8	治療に関する薬物 2	抗アレルギー薬、炎症、リウマチ、痛風に作用する薬 末梢神経作用薬、神経作用の増強、抑制薬		講義			
9	治療に関する薬物 3	中枢神経作用薬、麻酔、精神病に用いる薬、高血圧 メタボリックシンドロームと心血管疾患、狭心症治療薬		講義			
10	治療に関する薬物 4	心不全、不整脈、利尿薬、高脂血症の治療と薬物		講義			
11	治療に関する薬物 5	貧血治療薬、抗血液凝固薬、気管支喘息治療薬		講義			
12	治療に関する薬物 6	消化器、生殖器、糖尿病治療薬、生活改善薬		講義			
13	治療に関する薬物 7	甲状腺、下垂体と骨粗鬆症治療薬、皮膚科、眼科治療薬		講義			
14	治療に関する薬物 8	救急医療に使われる薬剤、消毒薬、漢方薬		講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進（3） 薬理学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	保健医療論	担当 教員	外部講師 近藤 泰三 *	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：現代医療の全体像を描き、保健・医療実践の課題を学ぶ。</p> <p>目標：1) 保健・医療の対象である人の生命・健康・病みについて理解する。</p> <p>2) 生活と保健・医療の関係を理解する。</p> <p>3) 先端医療技術を学ぶと共に、倫理的問題を理解する。</p> <p>4) 医療の現場における患者の権利と医療者の責務について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	医療と看護の原点	命と健康		講義	近藤		
2	私達の生活と医療 1	病気や怪我をしたら		講義			
3	私達の生活と医療 2	病気や怪我をしたら		講義			
4	技術社会の高度化 1	先端医療の問題点		講義			
5	技術社会の高度化 2	現代医療の落とし穴・倫理上のジレンマ		講義			
6	成熟する社会と人々の意識改革	インフォームドコンセントと医療開示		講義			
7	生命倫理	エイズ・安楽死		講義			
8	まとめ			講義			
評価方法		筆記試験(1時間別日に実施します)					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	地域保健活動論	担当 教員	外部講師 植松 勝子*	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：個人や家族、特定集団より構成される地域全体を視野におき、各々のセルフケア能力の向上、家族・地域の力量を高めるコミュニティケアの実際を知る。</p> <p>目標：1) 地域に存在する健康問題への支援方法を学ぶ。 2) 対象集団や関係機関の人々と連携し協働し、健康問題を解決するケアやサービスを知る。 3) 地域に存在する社会資源の活用と新たな社会資源開発を知る。 4) 地域で生活する人々が自分の生活と健康の関係を認識し、主体的に取り組みができるよう支援できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	地域看護とは 地域看護の理念	地域看護の理念・公衆衛生の理念		講義	植松		
2	地域看護活動の歴史	日本における地域看護の歴史		講義			
3	地域看護の対象	対象としての個人・家族・グループ・組織・地域		講義			
4	地域看護の場	行政機関・職種・学校・医療機関・社会福祉施設 ・国際		講義			
5	社会環境の変化と 健康問題	社会情勢の変化		講義			
6	地域看護活動の展開	健康と生活・理論および展開方法 地域看護活動の方法		講義			
7	活動の計画・実践・評価 地域看護管理	地域看護活動の展開における地域診断 地域看護活動に関する法令		講義			
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業科目	災害看護・国際看護	担当 教員	外部講師 森田 理*	単位数	1	時期	3年次 10月～
			藤垣 恵*	時間数	15		
<p>目的：災害看護における基礎的能力を身に付けるとともに、国際看護の必要性が理解できる。</p> <p>目標：1) 災害の概念、災害時の健康障害について理解する。</p> <p>2) 災害急性期の看護活動の実際を理解する。</p> <p>3) トリアージの基本的知識と方法について理解する。</p> <p>4) 国際看護の現状や動向、看護活動の実際を知る。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	災害・災害看護に関する知識	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場 被災者特性に応じた展開 災害と心のケア		講義	森田		
2	看護の役割と看護活動	関係機関、他職種との連携 在宅・地域における連携 災害ボランティア 避難所における看護ケア		講義	森田		
3	災害時に必要な技術の実際1	救急技術(応急処置、循環管理、外傷治療、搬送)の実際 災害時に多い傷病名と応急処置		講義	森田		
4	災害時に必要な技術の実際2	心肺蘇生の実際		演習	森田		
5	災害時に必要な技術の実際3	トリアージの実際		演習	森田		
6	国際看護1	看護とグローバルゼーション 国際救援活動の基本理念		講義	藤垣		
7	国際看護2	国際救援活動の実際とマネジメント		講義	藤垣		
8	試験(1h)						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護・国際看護学 医学書院					
事前準備や受講要件等							

担当教員の*印は実務経験のある教員

授業 科目	緩和ケア	担当 教員	外部講師		単位数	1	時期	3年次 10月～
			伊藤 浩明*	渡邊 理江*	時間数			
目的：緩和ケアを理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。 目標：1) 生と死を考える。 2) 緩和ケアの目的・意義を学ぶ。 3) 緩和ケアとしての身体的・精神的・社会的・スピリチュアル・家族ケアの実際を理解する。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1	緩和ケアとは	緩和ケアとは何か 緩和ケアの歴史・現状 疼痛緩和 チームアプローチ			講義	伊藤		
2	死を考える	死を考える 死に直面した人間の現実、死の看取りと医療者			講義	渡邊		
3	緩和ケアの進め方 身体的ケア	癌性疼痛、全身倦怠感、呼吸困難等			講義			
4	精神的ケア	不安・恐怖、怒り、抑うつ、せん妄等			講義			
5	社会的ケア・家族ケア	信頼関係の確立と問題の認知 グリーフケアの方法			講義			
6	緩和ケアの実際 1	スピリチュアルケア			講義			
7	緩和ケアの実際 2	スピリチュアルケア			講義			
8	試験 (1h)							
評価方法		回数2～5 筆記試験						
参考文献と資料		テキスト：系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 新体系看護学全書 別巻 生と死の看護論 財団法人カレント社						
事前準備や受講要件等								

担当教員の*印は実務経験のある教員